

AI時代における大型辞書の役割

金水 敏

(放送大学大阪学習センター所長・大阪大学名誉教授)

2026年2月5日（木）13:45－14:25

第17回産業日本語研究会

シンポジウム

「AIが紡ぐ言葉と世界：生成AIと人間の共創」

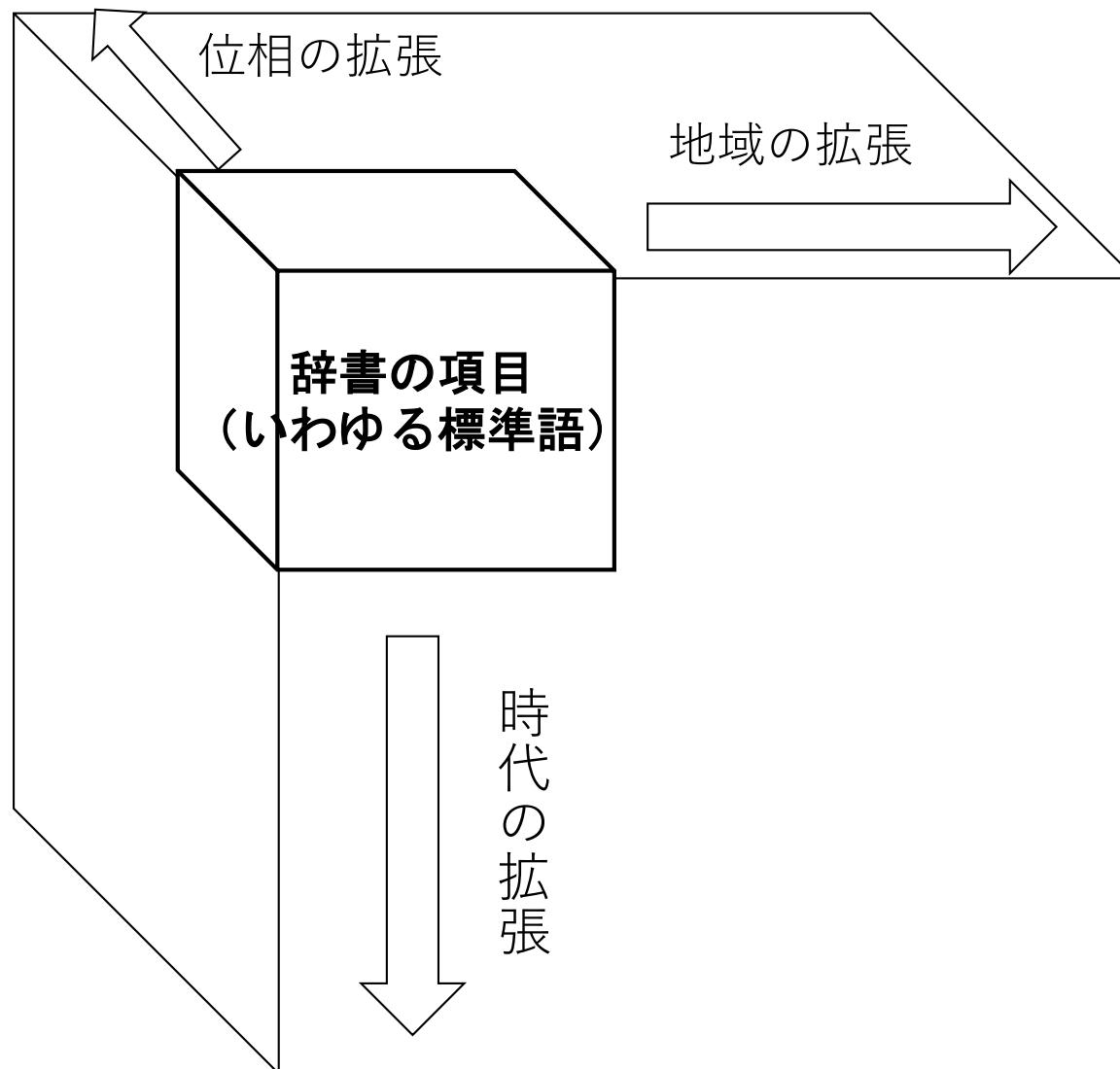
はじめに

- 筆者は現在、『日本国語大辞典』（以下、『日国』）第三版への改訂作業に携わっている。
- 日本で唯一の大型辞書である『日国』には、膨大な情報が収容されているが、この情報を創造的に活用するためには、使用者の側にも一定の知識やリテラシーが要求される。
- 本発表では、現在JapanKnowledgeで公開中の『日国』第二版を使って、新たな情報をくみ出す試みとしてのケーススタディを示したい。
- その過程で、生成AIによるサポートも有用である事を併せて示してみたい。

『日本国語大辞典』に
ついて

Claude Sonnet 4.5 による解説

- ・ 『日本国語大辞典』は、日本最大規模の国語辞典です。
- ・ **基本情報：**
- ・ **編纂：**小学館
- ・ **初版：**1972-1976年（全20巻）
- ・ **第二版：**2000-2002年（全13巻+別巻1）
- ・ **収録語数：**約50万項目（第二版）
- ・ **特徴：** ✓ **歴史的な語彙を網羅**：古代から現代までの日本語を収録 ✓ **豊富な用例**：文献からの実例を多数掲載し、語の使用時期や文脈を示す ✓ **方言の記録**：各地の方言も詳細に収録 ✓ **語源・語誌**：言葉の由来や歴史的変遷を解説 ✓ **専門用語も充実**：古典文学、仏教、医学など幅広い分野を網羅
- ・ **用途：**日本語研究、古典文学研究、方言研究などの学術的な調査に不可欠な辞典として、研究者や専門家に広く利用されています。現代の一般的な国語辞典では見つからない古語や方言、専門用語を調べる際に特に有用です。
- ・ 今回作成した地図のデータも、この辞典から抽出された方言の地理的分布情報のようですね。（後述）



金水作成 (2025/10/26)

ケーススタディ
「す」【鬆・巣】

注記

- 以下の内容は、金水 (2025a) および金水 (2025b) の内容に、新たなデータを付け加えて作成したものです。
- 方言情報の地図へのプロットに、Claude Sonnet 4.5 を使用しました（以下、CS4.5と略称します）。

ワケノシンノス

=若者の尻の穴

このイソギンチャクを食用にする福岡
県有明海沿岸の呼び名

『日国』第二版の「す」の語釈

- (1)大根、牛蒡（ごぼう）、蓮根（れんこん）などの、時期がすぎて、みにできるすきま。また、食品、植物、その他の組織などに、処理が悪かったため生じる多数の穴。
- (2)筒状のもの。また、その中空の部分。
- (3)鉄砲の筒の穴。
- (4)意図に反して鋳物の中にできた空洞。おもに鋳造の際、ガス抜きが悪かったため生じるもの。鋳巣。

『日国』第二版の「す」の用例

(1)の最古例としては、羅葡日辞書〔1595〕「Fistulo 〈略〉 Su (ス)、すなわち、アナガアマタアク 〈訳〉 海綿のような穴があく」というものが上がっていた。(2)の用例としては、羅葡日辞書〔1595〕「Ethmoides 〈略〉 ハナノ su (ス) すなわち、アナ 〈訳〉 鼻孔」があった。これは「尻の穴」にかなり近いと言えよう。(3)の用例は日葡辞書〔1603～04〕「Su (ス) 〈訳〉 鉄砲の筒の穴」であり、(4)の用例は俳諧・毛吹草〔1638〕六「水底やさながら月の鏡のす 〈貞盛〉」というものであった。

『日国』第二版の「す」の方言欄

(1)穴。小さい穴。 《す》 徳島県811三好郡810長崎県対馬911熊本県918宮崎県東諸県郡954 《すう》 愛媛県周桑郡・今治郡845 《ず》 宮崎県東諸県郡954鹿児島県肝属郡970

(2)耳や鼻などの穴。 《す》 薩摩†137島根県石見「人を鼻のすに入れたような事を言う（人をばかにしたさまにいう）」725山口県豊浦郡798徳島県811愛媛県845高知県861土佐郡866福岡市879長崎県対馬911熊本県下益城郡930大分県939宮崎県児湯郡947鹿児島県961 《すう》 愛媛県周桑郡054

(3)草木などの芯（しん）にあいた空洞。 《す》 香川県829 《ず》 福島県浜通155千葉県印旛郡274山口県豊浦郡「木の胴にづが入ってゐた」498京都府竹野郡622兵庫県但馬652島根県石見725

(4)瓜（うり）類の種のある部分。 《ず》 兵庫県加古郡664広島県771香川県829 《ずう》 香川県829

(5)わらを積み重ねたもの。 《す》 三重県飯南郡590

(6)海鼠（なまこ）のこのわた。 《ず》 香川県西部829



意味別分布

(1)穴・小さい穴

● す・ず・すう・ずう

(2)耳や鼻などの穴

● す・ず・すう・ずう

(3)草木の芯の空洞

● す・ず・すう・ずう

(4)瓜類の種の部分

● す・ず・すう・ずう

(5)わらの積み重ね

● す・ず・すう・ずう

(6)海鼠のこのわた

● す・ず・すう・ずう

* マーカーをクリックすると詳細が表示されます

* 同じ地域で複数の意味を持つ場合があります

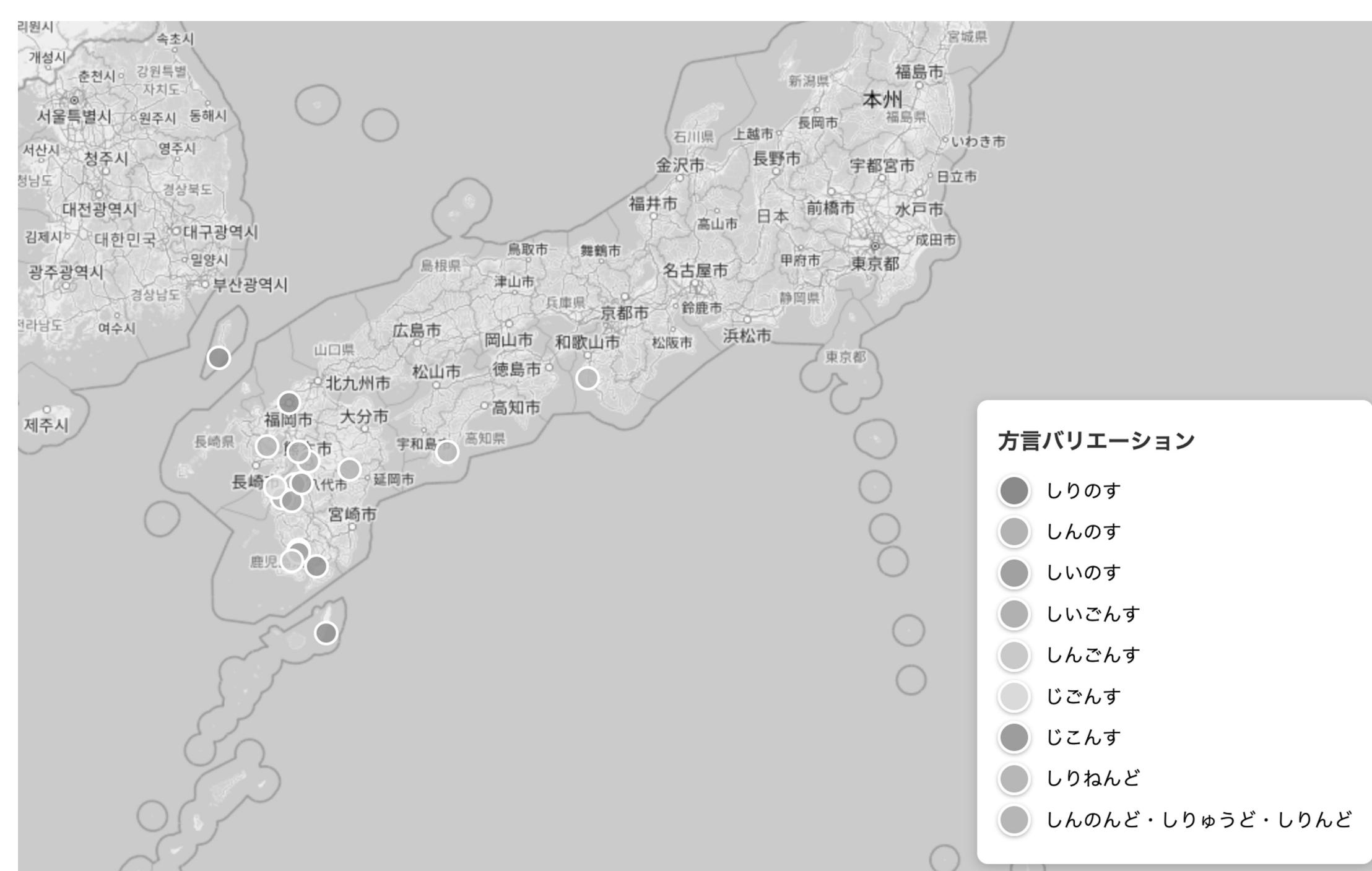
CS4.5 によって『日国』第二版の方言情報を地図上にプロット

『日国』第二版の「しんのす」「しりのす」の語釈

「しんのす」⇒「しり（尻）のす」

しりのす

- 方言
- (1)しりの穴。肛門（こうもん）。《しりのす》福岡市879長崎県対馬913鹿児島県種子島054肝属郡970《しんのす》佐賀県藤津郡895熊本県921930936鹿児島県鹿児島郡968《しいのす》鹿児島県963《しいごんす》宮崎県西臼杵郡947《しんごんす》鹿児島県鹿児島郡968《じごんす》熊本県天草郡936《じこんす》熊本県芦北郡・八代郡933《しりねんど》和歌山県日高郡054《しんのんど・しりゅうど・しりんど》高知県幡多郡870
- (2)しり。《しんのす》熊本県玉名郡058



CS4.5 によって『日国』第二版の方言情報を地図上にプロット

『日国』第二版の「みみのす」の語釈

みみのす

- 方言
- 耳。また、耳の穴。《みみのす》山口県803香川県829愛媛県喜多郡845福岡市877熊本県玉名郡058《みみんす》長崎県053《みんのす》佐賀県887長崎県898五島917鹿児島県肝属郡970



CS4.5 によって『日国』第二版の方言情報を地図上にプロット

『日国』第二版の「はなのす」の語釈

はなの孔（す）

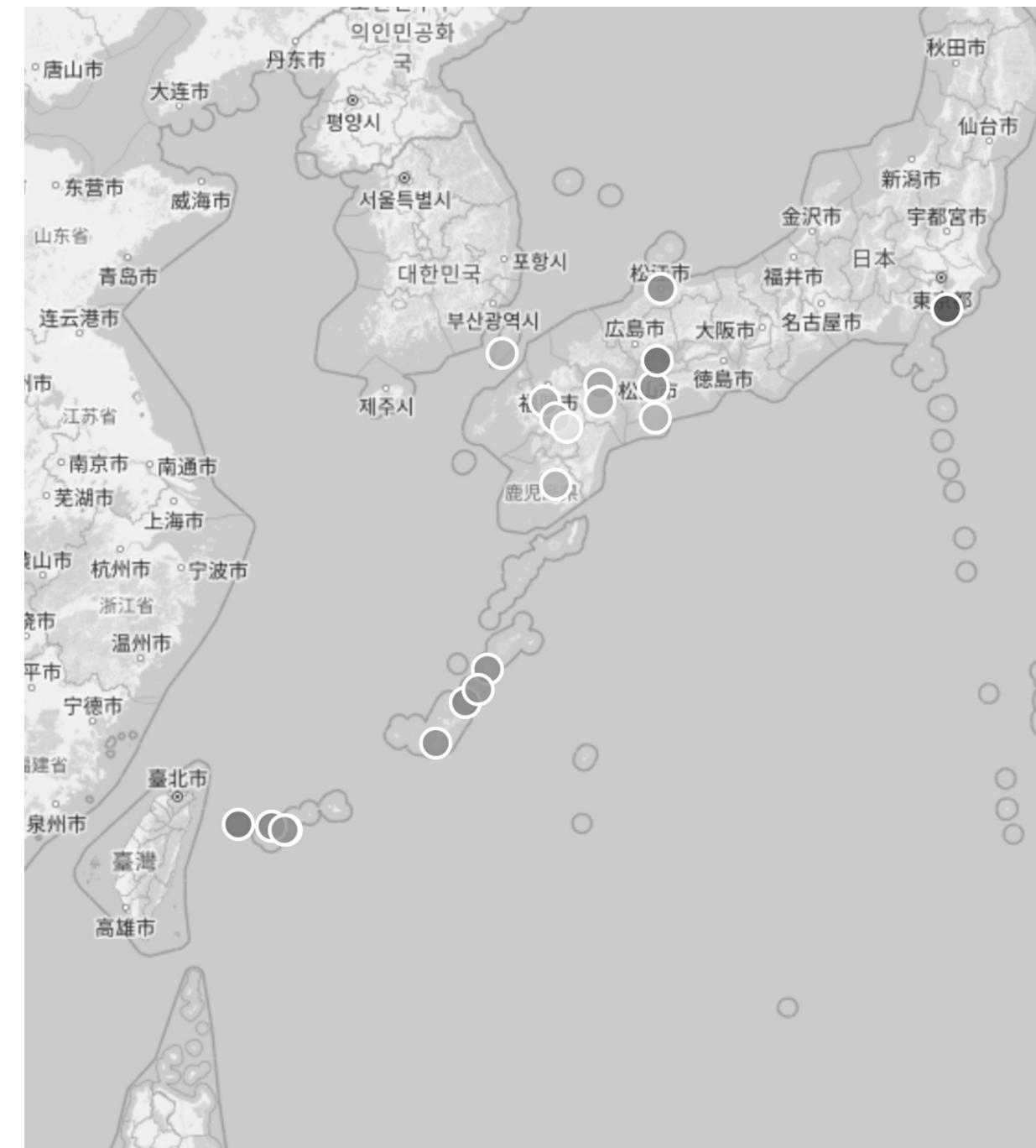
- 鼻のあな。

* 日葡辞書〔1603～04〕「Fanano su (ハナノス) 〈訳〉 鼻のあな。下（シモ）」

* 交隣須知〔18C中か〕一・頭部「鼻孔ハナノスノケヲ」

方言

- (1)（「す」は穴の意）鼻腔（びこう）。鼻の穴。《はなの孔》島根県725愛媛県喜多郡845《はなのすう》愛媛県今治市845《はなんす》佐賀県887長崎県対馬913鹿児島県961《はなのうど》（「うど」は穴の意）高知県幡多郡870《はなんうど》大分県西国東郡・大分郡938《はなんぼら》千葉県安房郡038《ぱなぬみい》（「みい」は穴の意）鹿児島県与論島975沖縄県石垣島・鳩間島996《はなんみい》鹿児島県徳之島975沖縄県島尻郡975《はなぬみひきゃあ》沖縄県竹富島996《はなぬひっか》沖縄県与那国島996《はなぬごお》鹿児島県沖永良部島975
- (2) 鼻。《はなんす》熊本県玉名郡058《はなす》熊本県上益城郡054



方言バリエーション

(1) 鼻腔・鼻の穴

- はなの孔
- はなのすう
- はなんす
- はなのうど
- はなんうど
- はなんばら
- ぱなぬみい
- はなんみい
- はなぬみひきやあ
- はなぬひっか
- はなぬごお

(2) 鼻

- はなす

* マーカーをクリックすると詳細が表示されます

CS4.5 によって『日国』第二版の方言情報を地図上にプロット



(図1) 「あな」と「す」 (日国余滴より。イラスト／イトウソノコ)

考察

- ・金水 (2025a; 2025b) では、「ワケノシンノス」の「ス」が野菜の「す」と同根ではないかとの金水の直感から、『日国』第二版の「す【鬆・巣】」を検索した結果を公開したものである。
- ・その時点では、『日国』に「しんのす」「しりのす」「みみのす」「はなのす」の項目があったことを見落としていた。『日国』に相互参照の注記がないことは問題であろう。
- ・方言情報を地図上にプロットすることは、情報整理にとって大変有用である。このことによって、「す」の一用法が中世以降、西日本（特に四国、九州）に残存した様子がよく分かる。

おわりに

- ・今回の試行によって、生成AIによるサポートが辞書情報の整理・活用に有用であることが実感された。このような機能は、将来、辞書そのものに実装されていく可能性が探られるべきである。
- ・また辞書の情報そのものを生成AIの情報源として発展的に活用する道も拓けている。『日国』のような大型辞書が、必ずしも専門家のための専用物ではなく、ひろくユーザーに活用されていくひとつの方針性が示されている。

参考文献

金水 敏 (2025a) 「「す」（【鬆・巣】）についての歴史的・地理的考察」『日国余滴』、小学館辞書編集室公式ウェブサイト「ことばのまど」所収。

<https://kotobanomado.jp/column/9902/>

金水 敏 (2025b) 「総合的な「日本語辞書」は可能か—「中央語」と「方言」を鷲づかみにする—」日本語学会秋季大会シンポジウム「日本語研究と辞書編纂の接点を求めて」
2025/10/26 Zoom開催（企画担当：佐伯暁子（甲南大学）、
堤良一（岡山大学）